

## 【平成29年度全国学力・学習状況調査結果の概要】

平成29年4月18日に小学校6年生と中学校3年生を対象として実施された国語と算数・数学の「全国学力・学習状況調査」結果の安芸市の概要について報告します。各教科の調査には、A問題と、B問題があります。A問題は基礎的・基本的な知識・技能が身に付いているかどうかを見る問題であり、B問題は基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかどうかを見る問題が出題されます。

この調査の目的は、下記の3点です。

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

以上の目的に則して、学校では自校の学力や学習状況を分析し、授業改善に努めています。

本調査が開始されて以来、各校は校内研修や授業改善等の取組を推進して一定の成果を出しています。本年度までの安芸市の結果を見ると、年々改善傾向にあり、全国平均前後の結果になっております。しかし、小・中学校ともに学力定着やその応用や活用においては課題がみられ、今後も取組を継続してまいりますので、みなさまのご理解やご支援をお願い申し上げます

【今後の取組】（本内容は、学力に特化した記載となりますことを予めご了承ください。）

これからの時代は、グローバル化や情報化、技術改革等と社会は進化し、そのため生活スタイルや働き方等、大きな変化が予想されます。そこで、子どもたちがこれからの世界をしっかりと生き抜くために身に付けるべき資質・能力は、生きて働く「知識・技能」の習得（何を理解しているか、何ができるか）、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成（理解していること、できることをどう使うか）、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」であり、そのために「主体的・対話的で深い学び」を構築する授業が求められています。

そこで、安芸市立小・中学校では、子どもたちが自らの可能性を最大限に伸ばし、基礎的・基本的な知識・技能はもとより、それらを活用する力や主体的に学習に取り組む態度など、確かな学力を身に付けることができるように、学力向上の取組を進めてまいります。

安芸市立小中学校では、（1）から（3）を実施します。

- (1) 基礎的な知識・技能の定着を図り、これらを活用して問題を解決するための思考力・判断力・表現力の育成に重点をおいた授業を行います。
- (2) 各学校においては、授業スタンダードを基に「課題」と「めあて」、「まとめ」と「振り返り」を確実に実施し、「付けたい力」を明確にすることや「付いた力」を確実にみとる授業を展開します。
- (3) 主体的・協働的に学び合い、自ら考え表現しながら学んでいく授業を目指します。

そのため、小学校「国語」では要点を捉え、目的や意図に応じて内容を整理し、表現する力の向上を図ります。話の構成や内容を工夫し、自分の考えが伝わるように話す力や、目的や意図に応じて内容を整理し、文章の構成や方法を工夫して書く力の伸長を図ります。読解力を高めるためには、文章の要点を明確に捉え、把握するための指導を工夫します。また、考えを交流する活動を積極的に取り入れながら、自分の考えとの共通点や相違点を明確にし、考えを広げたり深めたりすることができる授業を行います。

「算数」では、示された情報と場面から事柄や数量の関係を判断し、児童自らが主体的に筋道を立てて考え、判断の根拠を示して説明することが出来る力の定着を図ります。また、学習したことや体験したことを実生活と関連づけ生かすことのできる機会を設定し、日常の場面や新たな学習に活用していく力を育成します。問題解決した後は、自分で数値や条件を変えて、補充発展など基本的な問題での解決方法を応用したり活用したりすることで学力定着を図ります。

次に、中学校「国語」では、他の意見や文章の共通点や相違点を見つけ根拠をもって説明するなど、多面的な視点に立って内容や過程を把握し表現する力の向上を図ります。読解においては、文章の構成や展開、表現の仕方、そこから読み取れる書き手の目的や意図、効果を考える指導を行います。また、課題解決の過程では、自ら課題を設定し、基礎的・基本的な知識・技能を活用して、他者との協働や他の領域や教科等との関連を図りながら学習活動を行っていきます。

「数学」では、事柄が成り立つ理由を根拠をもとに、筋道立てて数学的な表現を用いて説明できる力や、資料を活用し、的確に読み取り、捉えることが出来る能力の向上を図ります。問題を解決するために、表や式やグラフ等を用いてそれらを関連づけて考察したり、日常の事象と関連づけた授業を行います。

また、問題解決の方法を説明し合い、お互いの説明を比較検討する対話的・協働的な学びの中で思考を深め、結論を導くための手段や条件を整理しながら、根拠をもとに筋道を立てて説明する力の伸長を図ります。